

千代田区内近接大学の高等教育連携強化コンソーシアム 2022年度事業実施内容とその評価

	事業	中長期計画の 数値目標 (評価指標) 等	2022年度当初事業計画	2022年度実施内容	コンソーシアムの評価	
目標 I 各大学間の連携の推進						
課題①	教育の質の保証・向上 (授業内容等の改善)	共同FD (ファカルティ・ディベロプメント)	年延べ30名以上の参加	<p>共同ファカルティ・ディベロップメントを企画し実施する (年1回以上)。</p> <p>第3回「Oxford EMI Course 千代田区キャンパスコンソ」の2023年度実施に向けた準備を行う。</p> <p>上記を合計して年延べ30名以上の参加を目標とする。</p>	<p>FD講演会『“学修者本位”の学びに向けて～教学マネジメントの理念と学修成果の可視化の実際～』(コンソ共催) 外部講師による講演と対談から構成される講演会を8月31日にオンラインで開催した。142名の教職員が参加した。</p> <p>「第24回法政大学FDワークショップ」(コンソ共催) 「大学職員のリスキリング 自らを高める実践知とは」をテーマとして9月2日にオンラインで開催した。教職員102名が参加した。</p> <p>第3回「Oxford EMI Course 千代田区キャンパスコンソ (公開FD)」 2023年8月にオンラインで開催することとし、2023年2月に参加者募集を開始した。</p>	<p>計画した事業を実施し、数値目標を達成できた。</p> <p>第3回「Oxford EMI Course 千代田区キャンパスコンソ」については、計画どおり実施に向けた準備を実施した。</p>
課題②	教育の質の保証・向上 (教育研究活動等の適切かつ効果的な運営)	共同SD (スタッフ・ディベロプメント)	年延べ50名以上の参加	<p>大学間職員人事交流制度を利用した職員の派遣・受入れを実施する (年1回)。</p> <p>その他、共同スタッフ・ディベロップメントを企画し実施する。</p> <p>上記を合計して年延べ50名以上の参加を目標とする。</p>	<p>「千代田区キャンパスコンソ特別研修職員制度による職員合同研修」 「大学間連携・地域連携の新たな取組みの企画・立案」「大学間連携・地域連携の新たな取組みのPR (広報の方法と広報コンテンツ制作)」をテーマとして、7月～9月の3ヶ月間を期間として2021年度に続き実施した。職員11名が参加した。</p>	<p>数値目標を達成できなかった。</p>
課題③	各大学間の学生の交流の活性化	学生共同ボランティア	年間延べ100名以上参加	<p>学生合同ボランティア企画 (コンソ協力) オンライン・オフラインで実施したボランティア及びボランティアに関連すると位置づけた以下の取組みに合計延430名の学生が参加した。</p> <p>「富士山の自然保全活動」「外来魚・外来生物駆除について考えよう」「～オンラインで東北と繋がる～つながるゼミ」「インクルーシブデザイン講座」「一緒に優しい社会を作りませんか?～ダウン症から考える共生社会～」 「高齢者支援企画!」 「スマホを使って高齢者の方と楽しくまち歩きをしてみよう～」「子ども×学習支援～夢と希望をもてる社会を考えよう～」 「ダウン症企画 (第2弾) 一緒に優しい社会を作りませんか?～ダウン症から考える共生社会～」 「ダウン症企画 (第3弾) 一緒に優しい社会を作りませんか?～ダウン症から考える共生社会～」 「防災キャンプ」「～富士山企画～よりよい環境づくりへの挑戦～」 「一緒に優しい社会を作りませんか?～ダウン症から考える共生社会～ (大学祭編)」 「高齢者支援企画～スマホを使ってまち歩きをしてみよう～」 「移民サポートボランティア講座」「手話講座特別編」</p> <p>課外プログラム (ボランティア以外) ボランティア以外の以下の課外プログラムに合計25名の学生が参加した。 「生きたデータを活用した統計・データ解析PBL～大学生の視点で“学生時代に行ってみたい”パッケージツアーを企画～」 「企業連携型PBL_防災・減災体験ワークショップ “若い世代を動かす「きっかけ、仕組み」とは?」</p>	<p>計画した事業を実施し、数値目標を達成できた。</p>	

	事業	中長期計画の 数値目標 (評価指標) 等	2022年度当初事業計画	2022年度実施内容	コンソーシアムの評価
課題④ 多様な学びの提供	単位互換の実施	単位互換提供科目に占める実履修科目の割合(前年度差5%増)	単位互換科目受講者数増の施策を検討し実施する。 複数大学による共同開講授業を1科目以上開講する。 大学連携による新たな共同開講授業の実現に向けた検討を行う。	単位互換 前期・春学期52名、後期・秋学期46名、通年1名の合計延99名(実数では84名)が本制度を利用して他大学の授業を受講した(2021年度は延75名)。対象318科目のうち学生が受講した科目数は64科目であった(2021年度は50科目) 2023年3月にオンラインで実施した単位互換説明会を動画コンテンツ化し、オンデマンドで視聴できるようした。また、単位互換科目受講生を対象としたアンケートを行い、制度の検証・改善に向けた検討に利用したほか、より多くの学生に単位互換の魅力を理解してもらえるように、寄せられた「受講者の声」を受講案内のチラシ等に掲載した。 共同開講授業 複数大学が授業を編成・開講する共同開講授業として、「地域文化理解Ⅰ」を単位互換科目として開講した。都内にある複数の企業からの協力も得て座学とフィールドワークから構成される授業を夏季集中の形態で実施した。 大学連携プログラムの実施準備 単位互換制度の枠組みを利用して、法政大学のSDGs科目群の科目を履修するなどの条件を充たした法政大学以外の学生に対して「法政大学SDGsサティフィケート」を交付することを2023年度から開始することとした。	単位互換制度は年々受講者が増え、安定的な制度運用のための情報を蓄積することができつつある。 共同開講授業については、計画のとおり実施できた。 大学連携による新たな共同開講授業の構築に先立ち、法政大学のプログラムを他大学の学生も対象として展開することとした。既存のリソースを大学間で共有することを通して多様な学びを実現できる環境を整備できた。
目標Ⅱ 各大学と千代田区(関係団体等を含む)との連携の推進					
課題⑤ 千代田区への研究成果の還元	「千代田学」事業	年5件以上採択	「千代田学」事業を通して研究成果を還元する。<年5件以上採択> 区内在住・在勤者等を対象とした研究成果を還元する公開講座を大学間で連携して行う。	「千代田学」事業 2022(令和4)年度の「千代田学事業」に、大学ごとの単独事業として5件(4大学)が、複数大学による共同提案事業として「自然災害発生時における大学を拠点とした帰宅困難者支援に関する研究(2)職員および学生を対象とした帰宅困難者支援施設運営ゲームの開発」(5大学・1短期大学)が採択された。共同提案事業は、千代田区キャンパスコンソの共同研究として位置付け、その研究成果を千代田区のコミュニティサイトで公開したほか、ちよだコミュニティラボライブで発表した(いずれも2023年3月)。更に、2023(令和5)年度の事業として「自然災害発生時における大学を拠点とした帰宅困難者支援に関する研究(3)地域連携を視野に入れた帰宅困難者支援施設運営ゲームの開発」が採択された。3年目の研究の準備に着手した。 共同公開リレー講座「ちよだで学ぶ2022ーモノ・コト・ヒト／現在・過去・未来ー」 6～1月に各大学・短期大学の合計14の公開講座をリレー形式で開催した。 キャリア形成支援講座「～未来予測が困難な時代のキャリア形成を考える～」 主に社会人を対象に、キャリア形成を、学び直し、働き方、メンタルヘルスなどの切り口から考える機会を提供することを目的とした講座をオンラインで実施した。各大学・短期大学及び千代田区商工業連合会が合計9の講座を担当し、160人を超える申込があった。	計画した事業を実施し、数値目標を達成できた。
課題⑥ 地域コミュニティの活性化	地域向けイベント等開催又は参画	地域住民延べ千名以上の参加	・研究成果の還元などを通じた、地域コミュニティ活性化に資する事業を企画し実施し又は参画する。<地域住民延べ千名以上の参加>	コンソーシアムが開催又は参画(主催・共催・協力・協賛・後援)する、地域向け、または、地域と連携して実施したイベントや講座の開講 オンライン・オフラインで実施した以下の事業の取組みに学生等を含め合計延1,946名の参加者があった。 「千代田さくら祭り2023公式ガイドMAP」製作プロジェクト、共同公開リレー講座「ちよだで学ぶ2022ーモノ・コト・ヒト／現在・過去・未来ー」、キャリア形成支援講座「～未来予測が困難な時代のキャリア形成を考える～」	計画した事業を実施し、数値目標を達成できた。 特に、共同公開リレー講座には合計14の講座に1,337名、キャリア形成支援講座には9の講座に延べ596名の参加があった。

	事業	中長期計画の 数値目標 (評価指標) 等	2022年度当初事業計画	2022年度実施内容	コンソーシアムの評価
課題⑦ 地域の教育支援	地域向け共同公開講座等の実施	年1回以上実施	地域向けイベント等開催又は参画	共同公開リレー講座「ちよだで学ぶ2022ーモノ・コト・ヒト／現在・過去・未来ー」 6～1月に各大学・短期大学の合計14の公開講座をリレー形式で開催した。 キャリア形成支援講座「～未来予測が困難な時代のキャリア形成を考える～」 主に社会人を対象に、キャリア形成を、学び直し、働き方、メンタルヘルスなどの切り口から考える機会を提供することを目的とした講座をオンラインで実施した。各大学・短期大学及び千代田区商工業連合会が合計9の講座を担当し、160人を超える申込があった。	計画した事業を実施し、数値目標を達成できた。
目標Ⅲ 各大学と地域産業界等との連携の推進					
課題⑧ 学生による地域産業振興支援	地域産業界との連携教育プログラムの実施	年1企業以上との実施	・地域の産業振興に資する事業（連携教育プログラム等）を企画し実施する。＜年1企業以上との実施＞	「千代田さくら祭り2022公式ガイドMAP」製作プロジェクト 2021年度に引き続き、千代田観光まちづくり実行委員会とのコラボレーション事業として、祭り時の来訪者が区内を回遊し地域の魅力に接することができる仕掛けづくりをテーマに、学生目線によるガイドMAPの企画・編集・ページ作成を行った。千代田区商工業連合会、法政大学学習ステーションとの共催としてとして位置づけたこの地域振興事業には13名の学生が参加した。	計画した事業を実施し、数値目標を達成できた。
目標Ⅳ 各大学と地方の大学との連携の推進					
課題⑨ 地方の大学との学生交流の活性化	相互参加型教育プログラムの実施	年1回実施	地方の大学の学生が参加する授業を単位互換科目として開講する。＜年1回実施＞	単位互換制度を利用した学生交流 沖縄県内・京都府内の大学の学生とともに受講するフィールドワークの単位互換科目を3科目開講した。「現代政策学特講Ⅰ（千代田区）」には22名（うち沖縄県内学生は3名）、「現代政策学特講Ⅱ（沖縄）」には19名（同4名）、「地域文化理解Ⅰ」には35名（うち京都府内学生5名）の学生が受講した。	計画した事業を実施し、数値目標を達成できた。
目標Ⅴ 千代田区キャンパスコンソの運営基盤強化（千代田区キャンパスコンソが必要と認めた事項）					
課題⑩ 積極的かつ適切な情報公開	共同IRの実施と公表	年3項目以上分析・公表	共同IR報告書を作成し公開する。＜年3項目以上分析・公表＞ 千代田区キャンパスコンソのウェブサイトを更新する。	「【共同IR】数字で見る千代田区内近接大学の高等教育連携強化コンソーシアム（2022年度）」の作成・公開 2020年度・2021年度に続き、2022年度版を2022年9月に作成・公開した。この中で、千代田区昼間人口に対する5大学・2短期大学の学生数、5大学・2短期大学全体の入学者の出身地域（出身高校所在地都道府県）と卒業生・修了者の卒業後の就職地域（都道府県）、単位互換制度の状況（科目の受講者1人あたりの受講科目数、開講科目数に占める実履修科目数・割合等）を分析した。 千代田区キャンパスコンソのウェブサイトのリニューアル 2022年12月にリニューアルし運用を開始した。ウェブサイトを見れば千代田区キャンパスコンソがわかる、をコンセプトに、共同IR報告書のほか、中長期計画や個々のイベントの参加者案内・実施報告等を、情報の対象者別に分けて掲載している。	計画した事業を実施し、数値目標を達成できた。
課題⑪ 地域リスクマネジメント	災害時連携体制の検討又は事業実施	年1回以上の検討・事業実施	教育研究に対する各種リスクへの対策を検討するとともに、リスクマネジメント体制を検証し、必要に応じて改訂を行う。	リスク発生情報共有のための連絡訓練 「リスクマネジメント体制に関する申し合わせ」に基づきリスク発生情報共有のための連絡訓練を実施した。 帰宅困難者支援に関する理解促進と課題整理（研修） 千代田区キャンパスコンソの共同研究「自然災害発生時における大学を拠点とした帰宅困難者支援に関する研究」に関連して、各大学において教職員・学生、地域住民（町会）が参加して「帰宅困難者支援施設運営ゲーム」を実施した。各大学の受入施設や備蓄物資の状況、大学間連携のあり方などについて理解を深め、意識の共有を図った（9月～3月）。	計画した事業を実施し、数値目標を達成できた。

	事業	中長期計画の 数値目標 (評価指標) 等	2022年度当初事業計画	2022年度実施内容	コンソーシアムの評価
課題⑫ 継続的検証体制の構築	事業取り組み状況・効果の評価	①コンソ主催連携 事業参加者の参加 満足度 (前年度比 5%増) ②単位互換提供科 目に占める実履修 科目の割合 (前年 度差5%増)	・事業取り組み状況・効果について、①コンソ 主催連携事業参加者の参加満足度 (前年度比 5%増)、②単位互換提供科目に占める実履修 科目の割合 (前年度差5%増) を指標として評 価を行う。また、中長期計画の検証と中間見 直しを行う。	2022年度に実施したコンソ主催連携事業5件の参加者アンケート結果から、満足 度は平均94.0%であった (2021年度は92.1%/対象事業数は8件)。 単位互換開講科目数に占める実履修科目の割合は、前年度差3.2%増であった。 制度開始以降の開講科目数とそのうちの学生が履修した科目数の推移は以下のと おりである。 2019年度 120科目 / 17科目 (14.2%) 2020年度 309科目 / 33科目 (10.7%) 2021年度 297科目 / 50科目 (16.8%) 2022年度 318科目 / 64科目 (20.1%) ※ () 内は、単位互換開講科目数に占める実履修科目の割合。 2022年度は5件の主催事業で参加者アンケートを実施し、取り組みの状況・効果の 評価のためのデータ収集を行った。	参加満足度の前年度比約2.1%増で あった。数値目標を約2.9ポイント達 成できなかったが満足度は前年度から 増え、事業全体でも9割を超える参加 者から満足という回答を得た。 開講科目数を増やしたこともあり、単 位互換提供科目に占める実履修科目の 割合は数値目標を達成できなかった。 ただし、学生が履修した科目数は前年 の1.28倍となるなど、毎年増加してい る。実受講者数も67名から86名に増加 した。
その他の事項 (千代田区キャンパスコンソが必要と認めた事項)					
— 千代田区キャンパスコンソ の情報公開	独自ウェブサイトの公開	—	—	12月に千代田区キャンパスコンソの独自ウェブサイトをリリースした。	千代田区キャンパスコンソの取り組みや イベント案内など、学生・教職員、地 域の在住・在勤者ごとに情報を掲載・ 発信するプラットフォームを構築でき た。
— 地域の声を把握する取り組み	大学間連携・地域連携に関 する意見募集	—	—	9月～10月にアンケート形式で大学間連携・地域連携に関する意見をウェブサイ トで募集した。千代田区キャンパスコンソの取り組みを知ってもらうこと、今後の 取り組みの検討にあたり参考にすることを目的としたこのアンケートみには、区内 在住・在勤を含む28通の回答をいただいた。	大学間連携・地域連携に関するイメー ジや千代田区キャンパスコンソに期待 することについて地域の声を把握する ことができた。

千代田区の意見
2022年度も新型コロナウイルス感染症の影響が残るなか、適切な感染防止対策を講じたうえで、リアルのみならずハイブリッド、オンラインを駆使した講座を開講するなどした結果、ごく一部をのぞき事業のほぼすべてにおいて数値目標を達成した。それぞれの大学の特色を活かし、各大学間で連携して教職員や学生の教養を深める機会を増やし、実現させ、それを継続している点は、当コンソーシアムの大きな利点であり、大いに評価できる点である。また、本区や商工業連合会の事業への積極的な協力、参加もあり、区の課題解決への提案も複数年計画で行うなど関係性も深い。今後も本区の地域課題の解決や連携協力を継続して進めていただくとともに、コンソーシアムのさらなる発展を期待する。

千代田区商工業連合会の意見
2022年度は、2021年度に続き千代田観光まちづくり実行委員会と連携して「ちよださくら2023公式ガイドMAP制作プロジェクト」に取り組みました。コンソーシアムの大学の13人の学生に千代田さくら祭り2023ガイドMAPの特集ページ「ちよだ よりみち さん ぽ」を製作してもらい、区内の施設や店舗などの様々なスポットの魅力を学生目線で発信するという特色をガイドMAPに加えることができました。参加学生は、千代田区のことを詳しく知ることができただけでなく、企画・調査・取材・執筆・デザイン・タイムマネジメントなど、一連の製作過程を専門スタッフのアドバイスを受けながら主体的に行うことを通して、地域振興活動の実際を体験し理解する機会になったと思います。千代田区には様々な文化・歴史資源があります。このプロジェクトの活動を通して地域の魅力に触れ理解することがことができます。今後も多くの学生に地域活動に参画してもらい自らの学びに生かしてほしいと思います。また、コンソーシアムには、引き続き、千代田区商工業連合会、学生・教職員、千代田区、地域住民などが連携して、魅力ある地域づくりに資する取り組みを展開していくことを期待しています。